

「不易」と「流行」 誠実・克己・忠恕

～優先席って？ あなたはどう考えますか？②～

大使は・・・「木を見て森を見ず 優先席の件で、これ以上掘り下げていくのはどうかと思いましたが、一方で自身で切り出したからには考えを惜しむのも良くないため、苦しい決断ですが、さらに追求したいと思います」として・・・「この件について考える機会がとても多かったです。その中である考え方に出くわしました。それを、対象でない人が優先席に座ってはならないという意見に対して、投げかけたいと思います」と、「優先席に座ってはならない」という意見の人に対するメッセージを掲載しています。

「優先席のすべてが優先席を必要とする人たちによって埋まり、体が不自由な方や、妊娠中や乳幼児をお連れの方が座れない状況が発生したとします。それは普通にあり得ることです。

すると、優先席を一般の方が使ってはいけないという論理で考えると、このような状況を考慮し、一般座席に座ることさえ慎むべきでしょうか。そうはならないでしょう」と指摘し、「盲目にルールや暗黙の了解を行動の指針にしていたら、このような応用の状況に対応できる力がなくなってしまい、それを私は恐れます。

なぜなら、ルールということだけで動いていたら、視野が狭くなり一般の席に座った時に、自分以上に必要とする人がいることが見えなくなるからですと持論を展開。

「優先席ありきではなく、しっかりと譲り合いの精神を携えていれば、そのような状況にも対応できると思います。そもそも、そのような共生社会における人間本来の優しさを促進させるためにこそ優先席がつくられたのではないのでしょうか」と、「優先席」という言葉だけにとらわれず、本質を見極めることが大事だと主張。

「このようなことを実践できていれば、優先席は、その場の判断で使っていいと思います。そして一般席だって“譲ってもらえますか”“譲りますよ”という会話がうまれる、そのような社会に近づけていけるのではないかと考えました。」とした。

大使は、「もう一つの結論として、やはり様々な考えがあったお陰で、私なりに社会のルールやこれからも活用していく電車の乗り方ひとつにおいてもこれまで以上に理解を深めるきっかけとなりました。だから、本当に多くの様々な意見を出してくださった皆様に心から御礼を申し上げます」と感謝を記し、

「唯一心残りなのは、罵倒したり、目に余る言葉を使う人間が一部で見受けられたことです。それは、議論しようとする努力に対して表現の自由や多様性を制限することにつながりかねない非建設的で、あってはならないことだと言うことを付け加えておきます」と、一部の過激な言葉を用いた批判の声に対する私見を記し、この問題を締めくくった。



この投稿には「空いてれば座っていいし、誰か来たら譲ればいい、わざわざ優先席なんて書かなくてもいい社会になればいいですよね」「多くの日本人は同じ感覚だと思います」「いろいろ失礼な態度を取った人もいたようですが、どうか日本を嫌いにならないでください。」

と、さまざまなコメントが寄せられたそうです。

さて・・・あなたはどのように考えますか？

「個」の視点ばかりを主張する社会は・・・共生社会に成長できるのでしょうか。

「公」の視点がある社会こそ共生社会に成長できるのでは・・・

